

2019  
秀作

## 第17回「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール

# シングルマザーの貧困問題

愛知県・愛知県立半田商業高等学校 3年 原口 永遠

「かわいそうだね。」これは、私が小学生の時に同級生のお母さんに言われた言葉です。私の親は離婚しており、その当時は「シングルマザー」や「離婚」と聞くとあまりいい印象をもたれず、後ろ指をさされるとまでは言いませんが、住んでいた市営住宅の住民が全員知っているような状況で、そのような目で見られているという雰囲気は小学生の私ですら感じるほどでした。

しかし、現在ではシングルマザー世帯が120万世帯を超え、理由としては「離婚」が79.5%に上ります<sup>1)</sup>。そのため、現在では「離婚をしている」などと言ってもあまり驚かれはしないでしょう。その中でもシングルになった人の多くは女性で収入が少なくまた頼れる親戚もいない人が大半です。

そんな方々を少しでも手助けしようと政府は様々な手当てを出していますが、一向にシングルマザーの貧困問題は解決されません。理由としては、様々な援助があるのを知らずにいたり、活用していなかったりするからではないかと考えられます。

援助などの支えがない中シングルとして子供を育てるのは容易なことではなく精神的にも身体的にも非常に危険です。

それが最も分かるのが、報道ニュースなどでも取り上げられる事が多くなった「母子心中」や「子供の虐待死」です。安定した職に就けず生活に行き詰まり、母子ともに餓死したり、母親が子供を手にかけてしまったりする事件です<sup>2)</sup>。こうした事件が多発する中で今この瞬間にもひとりで抱え悩み苦しんでいる人はたくさんいます。このようなことがなぜ多くなってしまったのか。

私は昔のような「ご近所さん同士での支え合い」や「助けて」と言えるような環境がなくなってきたからではないかと考えます。少し前までは、ママ友と呼ばれる母親同士で子供を預かり合ったり、子供の行事では行く事ができなかった人の代わりにその人のお子さんの写真を撮ってあげたりといった、私が幼い

頃にはまだあったはずの「助け合い」はあまり見られなくなりました。また、電車の中で赤ちゃんが泣いていてお母さんが困りながらも必死にあやしているにもかかわらず、「うるせえな。」という言葉をつく人も増えたように感じます。このほか、いくら貧困対策の制度があるとはいえ、それを利用するには条件が非常に厳しい上に、世の財政難から、生活保護の申請をできるだけ受け付けないようにしようという自治体も増加しています。例えば、福祉事務所の窓口へ相談にいったとしても「何で離婚したの」「なら何故産んだの」と責められることがあるのです。それだけではなく、今は生活保護の支給額が従来より低く見直される傾向にあります。「もう限界だ。」と助けを求めているにもかかわらず、福祉事務所の窓口まで責め立て救いの手を伸ばしてもせず追い返す<sup>3)</sup>。そして、事件が起きてから救いの手を差し伸べられなかったことを謝罪し、終わった事にする。私は、ニュースで報道されるこのような謝罪会見を見るたびに、何もできない不甲斐なさを感じ、その子が感じた苦しみを考えるだけで悲しみに陥ります。

私はシングルマザーを手助けする方法として手当を厚くするのではなく、安定した職業への就業援助と働き方改革、託児隣接推進が必要だと考えます。私のようにシングルマザーの貧困問題を取り上げている方の多くは「手当を厚くし充実させる」ことを挙げていますが、私はかえってシングルマザーの方々の自立を妨げるのではないかと思います。手当を厚くし生活に余裕ができてしまうと働かなくてもいいのだと考えるようになったり、シングルだと偽り手当をもらう詐欺行為が増えたりすると考えたからです。その点を踏まえた上で私が挙げた三つの意見は、それを防ぐとともに、サポート面に関して重要視しています。

就業援助を行うことで、シングルの方が安定した収入が得られるようにし、もし子供の発熱や病気で休みが続いても一定の収入が得られるようにすることで、毎月お金の心配をしなくても安心して生活を送れるので精神的負担は軽くなると思います。また、託児隣接を推進してほしいと考えるのは、子供の目線で考えたとき近くで自分のお母さんが頑張っていることを感じ、安心するのではないかと、自分の体験も交え、そう思いました。

私が住む半田市では、子育て制度として、児童手当が15歳までの児童を持つ

方に月 5,000 円から 1 万 5,000 円支給されます<sup>4)</sup>。たったこれだけかと思われ  
る方もいらっしゃると思いますが、私の家庭ではこの金額が入ってくるだけで  
生活が大きく変わりました。また、私は当時小学生で、母の支えになってあげ  
られないため、母が生活に少しでも苦しい思いをせず穏やかな表情でいてくれ  
ることが心から幸せでした。

最後に、最近では大手企業が職場に隣接する託児所を開設することが、実際  
にしてほしいという声も多く上がるようになってきたため増加傾向にあります。  
託児所が近くにあること、子育てとは親だけが頑張るのではなく地域で協力し  
ともに育てていくこと、これが自然なことだと考えられるような世の中になっ  
てほしいと思います。

(注)

1) 不倫慰謝料請求ガイド「シングルマザーを支援」

URL <https://furin-isharyou.net/article/explanation-about-public-subsidies-and-assistance-to-support-single-mothers/>

2) 3) 現代ビジネス『明日の食費がない』『子育ては苦しみばかり』【ルポ】シングルマザーの貧困

URL <https://gendai.ismedia.jp/articles/-/44272>

4) 育児助成金白書「愛知県半田市の子育て制度・相談窓口一覧 児童手当」

URL [https://www.ikuhaku.com/mains/systemdetail/aichi/handa\\_shi/3356/](https://www.ikuhaku.com/mains/systemdetail/aichi/handa_shi/3356/)

